

狭山差別裁判糾弾！ 狭山第三次再審闘争勝利！
東京高裁・寺尾による差別「無期」判決40カ年糾弾！

10・31 狭山中央闘争を闘おう！

5・23 闘争実行委員会

連絡先・さいたま市大宮郵便局・私書箱21号

1974年10月31日の東京高裁・寺尾による差別「無期懲役」判決から40カ年を迎えます。石川一雄さんの差別不当逮捕から51年、第三次再審請求から8年、裁判所・検察・弁護団による「三者協議」開始から5年が経過しています。

石川さんの無実と、権力による差別犯罪を示す幾多の証拠を突きつけられても、東京高裁は事実審理を行わず再審を開始しようとしていません。石川さん本人が出席できない「三者協議」の「密室」のなかで「処理」し、全国の部落大衆による差別裁判糾弾闘争の大衆的実力闘争を解体せんとする、国家権力による攻撃を粉碎しよう。10・31差別無期判決を許してしまつた怒りと悔しさかみしめ、石川さんの「寺尾判決の二の舞を踏んではならない」との檄のとおり、狭山闘争の歴史的勝利に向けて全力で闘いぬこう。

■ 弁護側証人、現場検証を却下し、「戒厳令」下うちおろされた差別判決

東京高裁判長・寺尾は、1974年3月22日の就任3回目公判で早期結審の方向を打ち出し、決定していた証人をも取り消し、弁護人の要請する証人、証拠調べおよび現場検証を却下しました。

そして10月31日、無実の部落民Ⅱ石川一雄氏に「無期懲役」という差別有罪判決をうち下ろしたのです。この寺尾判決が「確定判決」として今なお、無実の石川さんを「女子高生誘拐殺人犯」とし、仮釈放という「見えない手錠」を枷しているのです。

この日、東京高裁は狭山公判以外はすべて休廷にし、武装した機動隊、装甲車、放水車で裁判所と日比谷公園を包囲し、霞ヶ関一帯にすさまじい弾圧体制がひかれました。寺尾裁判長は「全文を読むと一日半はかかるので骨子を述べる」と前置きし「原判決を破棄し無期懲役に処す」と言い放った。判決

理由の骨子を述べようとした寺尾に対し、石川さんは「有罪なら判決の中身は聞きたくない」と怒りを叩きつけました。

1964年9月10日の第二審冒頭、石川氏は「俺はやっていない」という血の叫びを発し、捜査、逮捕、取り調べ、起訴、裁判の全過程をつらぬいている部落差別を徹底糾弾し、でつち上げを暴き、狭山差別裁判をうち砕く闘いを開始しました。全国の部落大衆は「石川の命、我が命」と決起し、部落解放同盟の全国行進や各地での闘いが盛り上がりました。これに呼応して多数の労働者・学生が狭山闘争に決起し、73〜74年の連続した公判闘争に、部落大衆をはじめ、ともに闘う労働者・学生が大結集しました。各地で狭山共闘会議が結成され、74年9月26日の石川さんの最終意見陳述には10万人を超える人

々が日比谷公園を埋め尽くしました。

石川さんはこの最終意見陳述で「完全無罪判決をくだすことによって、部落民を犠牲にえらんで権力の威信の回復を計ろうとした、まさに天人ともにゆるさない悪逆非道なやり方に批判をくわえ、国家権力の自己批判をもとめる判決を切望する」「今日まで歯を食いしばって頑張ってきたのは、真実を明ら

■部落差別を黙殺し、差別捜査・でっち上げを追認した寺尾判決

寺尾は部落問題に関する本を十数冊（書名まであげて）読んでいると豪語しながらも、判決文の中には「部落」も「差別」という言葉も、一言も言っていないません。そして「本事件の捜査はきわめて拙劣なものではある」と認めつつ、「捜査官が始めから不当な予断と偏見をもって被告人をねらい撃ちしたとする所論を裏付けるような証拠は、発見することができない」と、客観的証拠と石川さんの「自白」が一致

かにし、本件が差別裁判であり、三百万部落の方々の抑圧差別を一身に背負っていることを自覚したことによるもの。」と部落差別を徹底糾弾しました。有罪判決を決めていた寺尾は、この石川さんの最終意見陳述・弁護団の最終弁論を検討することなく、判決文を執筆していたのです。

しない点は、「石川ウソツキ論」との詭弁を弄しているのです。差別捜査、差別でっちあげを追認し、石川氏の全力の訴え、弁護団の論証を一蹴した、寺尾の部落問題の利用、もてあそびという態度と行為を絶対に許すことはできません。

まさしく、寺尾は、国家権力の差別支配を体現し、狭山差別糾弾闘争の全人民的高揚をおしつぶすために、石川氏の無実を踏みにじり、差別判決を下し

たのです。そして、寺尾は、最高裁段階での事実調べをさせないことを目的として、一審「死刑判決」を破棄して「無期」判決をうち下ろしたのです。これを受け、1977年8月9日、書類審査だけで上告が棄却され、その後の再審も書類審査で無実の証拠が葬り去られ、棄却攻撃が続いています。第三次再審請求から8年半になる現在、1974年10・31から40年間、一度の事実調べも行われていないのです。

■東京高検の居直り・証拠隠しを許すな！ 却策動粉碎！

第二審・寺尾段階、またこれまでの闘いで石川さんの無実はずで明らかにになっています。さらにこの間の闘いで137点の証拠開示がされましたが、東京高検は肝心の「殺害現場」とされる雑木林の血痕反応報告書・八ミリ撮影フィルムなど、無実を

石川さんは寺尾判決翌年1月20日の新年メッセージで、「判決文を分析すれば、これは紛れもなく私が無実であることを百も承知しながら部落差別にもとづく予断と偏見のうえに国家権力の威信にかけてかけられた攻撃であったことは明白」「権力を倒さずして部落解放はない」を肝に銘じ、私も国家権力との闘いをより一層厳しい姿勢をもって闘い続けていこうと決意しています」と決意を訴えています。

東京高裁・河合健司裁判長の棄

さらに鮮明にする証拠を「不見当（見あたらない）」と言って開示せず、不見当の理由も明らかにしていません。殺害現場を裏付ける客観的証拠は何もない、石川さんの強制された「自白」のみです。石川さんの言うように「殺害現場」が特定されないまま

『有罪』が認定されている」のです。事件当日「殺害現場」とされる雑木林のすぐ隣の畑で農作業をしていた○さんの「悲鳴も人影もなかった」との捜査報告書が、1981年7月30日開示証拠に含まれており、○さんも「いつでも証言する」と言っています。○さんの証人尋問が何より必要です。また弁護士は検察側がどんな証拠を所持しているのかすらわからない状態であり、「証拠リスト」の開示が決定的に必要です。

石川さんは1963年5月23日の別件不当逮捕以降、ハンストで抗議・否認しています。警察は6月17日保釈直後に再逮捕し、身柄を狭山署から使われていない川越分室に一人だけ移送、外部との一切の交通遮断・弁護士との面会制限のなか、ウソや脅しで「犯人の足跡と兄の地下足袋が一致。おまえでなければ兄が犯人」とだまして「自白」を強要しました。長谷部警視の「やったといえよ 十年で出してやる、男と男の約束だ」を信じ込ませられ、石川さんは一審・浦和地裁での死刑判決を、長谷部警視の

教えの通り、一から百までを何回も数えながら聞き流していました。

弁護士団が7月25日提出した新証拠は、石川さんが単独犯行「自白」を始めた6月23日の取調録音テープと、取り調べをした関源三巡査部長の捜査報告書から、石川さんの「自白」は体験者によるものでない、つまり石川さんが無実であることを示しています。関源三「捜査報告書」によれば、石川氏は関源三だけ残ってもらって、「Yさんの遺体の様子を教えてくれ」と話しており、関源三は二審第6回公判でもそのことを証言、「関報告書」と録音テープは内容が一致しています。警察は、関源三が石川さん達の野球の審判やコーチをしていたこと、再逮捕で不安な石川さんの気持ちを計算の上、「自白」に追い込んだのです。

釈放直後の再逮捕、拘留理由開示裁判がなくなつたことや弁護士接見妨害などで不信をおおってつけ込み、何としても犯人に仕立て上げるやり方は全く許せません。

■石川一雄さん・全国の部落大衆と連帯し、狭山決戦勝利へ！

安倍連合政府の改憲、戦争とファシズムに向けた攻撃の中、土地差別調査や戸籍・住民票不正取得、「在特会」などファシストの差別攻撃が激発しています。都営住宅エレベーターに差別落書きが2年も放置されていたり、「部落地名総監」を配っただけでは人権侵害にならない」との、研修会での広島法務局幹部（複数）の発言など、私たちの身の回りで差別事件が多発しています。差別を見過ごすことは差別そのものであり、一切の差別を許さず闘いに立ち上がりましょう。部落差別に基づいた権力犯罪―狭山差別裁判を徹底糾弾し闘おう。

昨年10・31中央集会において公安刑事の潜入・闘争破壊策動を尻押しした木元グループを許さず闘おう。木元グループは、明治大学で発生した差別張り紙事件の下手人・砂田を、明大資本とのボス交のために抱え込み、差別糾弾闘争に敵対した差別主義集団

です。狭山闘争への破壊介入をとともに跳ね返そう。石川さんは今も「無期懲役」に処せられ、94年の「仮釈放」以降も「見えない手錠」を枷られている。開示証拠や三者協議内容を明らかにすることへの規制が強化され、「開示証拠を公開すると弁護士でなく本人が罰せられることもある」と言われています。「再収監」で六年の投獄をさせられた人を、石川さんも何人も見てきたといいます。証拠リストすら明らかにされていないことは、多数の警察・検察のdoch上げ証拠を隠し通す警察権力総体の方針であるからです。

石川さんの「片道燃料だけを持って最高裁に突っ込みたい気持ち」（2002年1月第2次再審異議申し立て棄却糾弾集会）との怒り、「生きているうちに3次で決着を。これが最後だ！後の裁判はない！」をかみしめ闘っていいこうではありませんか。